

地域計画

地域計画は、地域の将来（概ね10年後）の農地利用の姿（地域の農地をだれが担うか）を明確にするもので、砺波市においては、目標年度を令和16年度として、令和7年4月から計画を実行します。

地域計画の構成

地域計画は、「計画書」「目標地図」により構成され、地区ごとに計画を策定します。

※ 地域計画は、現行の「人・農地プラン」を移行することから、市内のすべての地区で策定を進め（中野地区は5つ、梅檀山地区は3つに区分）、全体の計画数は最終的に27プランとなりました。

計画の策定から実行までの流れ

意向調査（令和5年6月～8月）

農家・農業法人が抱えている課題をはじめ、地域計画の策定に必要な内容について調査のうえ、それぞれの意向をまとめました。

〈対象〉農家・農業法人（耕作が10アール未満の農家等を除く）

地域の検討会（令和5年9月～令和6年11月）

意向調査の結果を踏まえ、市内各地区で4回検討会を開催し、地域の中心経営体や農業関係機関とともに、将来の農地利用について検討したうえで、「目標地図（案）」を作成しました。

《地域の検討会の構成》

現行の「人・農地プラン」に位置づけられている中心経営体、中心経営体以外の農業者
農業委員、土地改良区（地区委員）、JAとなみ野（営農指導員）、自治振興会など組織代表

「地域計画」の策定・公表（～令和7年4月）

令和7年3月までに計画に関する法的な手続きを進め、同年4月に公表します。（市HP掲載）

「地域計画」の実行（令和7年4月～）

令和7年度から、計画書及び目標地図で示した将来の農地利用の姿を目指し、効率的で持続可能な農業の実現に向けた取り組みを進めます。（計画の変更は、必要に応じて随時行います）

意向調査の主な集計結果

○ 送付数（経営体）827件・回答数695件（回答率84.0% 個人617件・法人78件）

◇ 農業を営むうえでの課題

- | | | | |
|----------|-------|-------------|-------|
| ① 採算性が低い | 14.7% | ② 施設・機械等の更新 | 14.0% |
| ③ 米価の下落 | 13.1% | ④ 後継者不在 | 12.0% |

◇ 今後の農業経営の見込み

- | | | | |
|--------------|-------|--------------|-------|
| ① 農業を続けたい | 52.1% | ② 農業をやめたい | 32.4% |
| ③ 経営規模を縮小したい | 7.7% | ④ 経営規模を拡大したい | 6.2% |

地域の検討会（市内27地区）など

- 第1回目（令和5年9月～12月）
 - ・意向調査の結果、目標地図（素案）の作成に向けた進め方を説明
 - ・地域の課題など意見（情報）交換
- 第2回目（～令和6年3月）・第3回目（令和6年8月）
 - ・目標地図（素案）の作成に向けた協議
 - ・地域の課題など意見（情報）交換
- 第4回目（令和6年11月）
 - ・地域計画（案）の策定に向けた協議
- 農業委員会（令和7年2月総会）
 - ・地域計画（案）を承認



（検討会の様子）

地域の検討会のいくつかの意見（市内27地区）

- 地域の農地は、水稻を中心に大豆・大麦等の生産調整作物の生産に取り組む一方で、玉ねぎなど収益性の高い農産物生産（市特産品を含む）に取り組み、スマート農業など省力化等を進め、地域の担い手で維持していきたい。
- 農地整備事業の実施の地域は、さらに集積・集約化を進め、効率的な農地利用に取り組みたい。
- 個人経営体や集落営農組織等は、高齢化、人手不足、若手不在、後継者等が課題になっており、法人化、合併、統合等の発展的な見直しを進め、農地の維持に努める必要がある。
- 畦畔や道路路肩の草刈りは、年々大変になっており、軽労化機械の導入を進めるほか、担い手（耕作者）に限らず、農地所有者・地域ぐるみでの支援等が必要になっている。
- 中山間地域では、担い手（耕作者）不足が顕著であり、耕作者間の連携により、効率的な農地利用や耕作放棄地を増やさない取り組みが必要である。

地域計画（案）

- 市内各地区の検討会により、以下の「地域計画（案）」を27地区でそれぞれにまとめました。
- 計画（案）は、各地区（地域）の特色を踏まえ、現状、課題、将来のあり方、取組目標等について将来の方向性を示しています。



「左から計画書・目標地図の例」

- 各地区（地域）で開催する農事座談会において、計画を説明し周知（PR）を図ります。
- 地域計画は、令和7年4月の公表（市HP掲載）にあわせて計画がスタートします。